資料４

指定ごみ袋についての状況報告と レジ袋との兼用に関する検討について

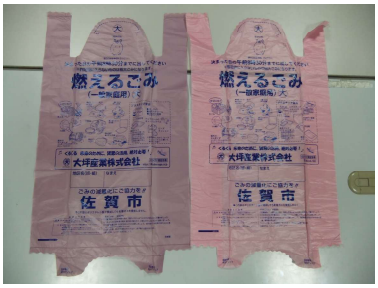
令和8年7月29日
令和8年度 第1回 環境審議会
佐賀市 環境部 循環型社会推進課

指定ごみ袋についての状況報告

1　中東情勢の緊迫化に伴う影響

① 製造コストの増
原材料（ポリエチレン）、インク、溶剤等の物価高騰により、
製造コストの上昇（32%）について製造業者より4月に通知。

② 原材料調達が不透明
製造業者と連絡を密にして年内は確保済。
その後も鋭意取組中



（左）4月製造分　（右）従来品

③ 再生原料の配合率の上昇
将来の調達不足に備える事前対策。色味がやや黒みを帯びる（品質への影響はなし）

④ 出庫数（販売数）の増
4月～6月の出庫数は、過去3カ年平均の約1.２倍

2　本市の対応

市民生活への影響を最小限に抑えるため、引き続き指定袋の安定供給に取組む

・製造業者への状況確認、契約方法の検討、在庫の確保(原材料、製品）に取り組む。
　今後も製造業者と密に調整しながら、先手で取り組む。
・製造コストの増による不足分は6月議会で補正予算措置済

袋（可燃ごみ）の小サイズ化・レジ袋化に関する検討　①現状

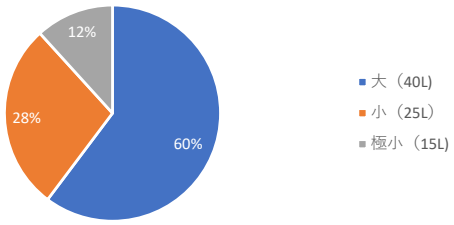
○要望・意見

・小さいごみ袋のばら売りがあれば、買い物でマイバッグを忘れたときにレジ袋を買わずに済む
・ごみ箱にレジ袋をセットすると、ごみ袋の中にレジ袋と2重になる
・小さいサイズになれば、プラスチック削減になる
・他市でも小さいサイズを作っているので佐賀市も作ってほしい
（県内では鳥栖市や唐津市でレジ袋化済み）

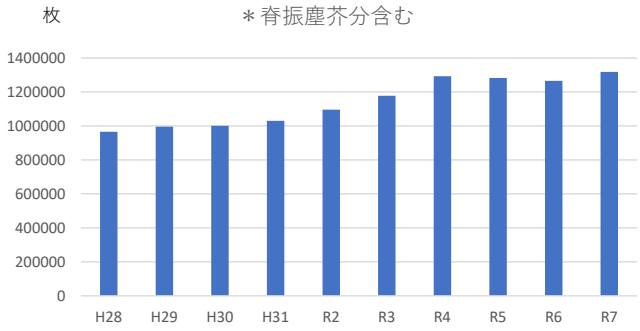
○指定袋（可燃ごみ）の需要

・可燃ごみの袋3種（大40L、小25L、極小15L)のうち、極小サイズは一番出庫数が少ない
・極小サイズの購入数は年々増加している

サイズ別出庫割合(R7年度)



ごみ袋（可燃-極小）の出庫数の推移
＊脊振塵芥分含む

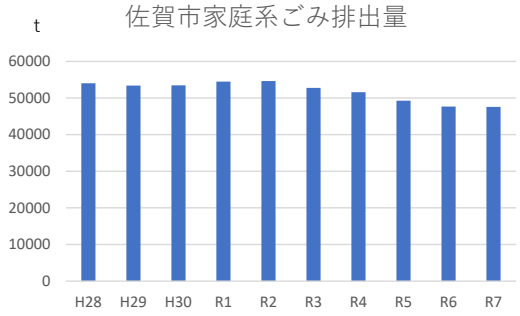


袋（可燃ごみ）の小サイズ化・レジ袋化に関する検討　①現状

○佐賀市の状況

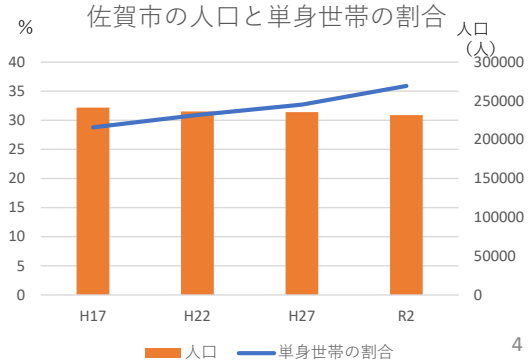
・ごみの排出量は減少傾向
→H28年～R7年の10年間で約6,400ｔの減

佐賀市家庭系ごみ排出量



・単身世帯、高齢単身世帯は増加傾向
→単身世帯の割合はH17年～R2年の15年で7.1%増加
※現在の極小サイズは、H15年に 単身世帯の増加に伴い製造開始

佐賀市の人口と単身世帯の割合



・買い物時は「マイバッグ持参」を推奨
→マイバッグ持参およびノーレジ袋
実施率は 73.2%（R3調査）

他市の極小サイズ・ばら売りの状況（令和8年3月聞き取り）

○久留米市

・令和6年7月発売
・サイズ　8Ｌ　（30L,18L,8L）
・販売セット 1袋50枚入、1枚ずつ
・工夫した点
　黄色を濃くして中身を見えづらくした
・状況　50枚入りのほうが売れている





○鳥栖市

・令和8年2月発売
・サイズ　13L　（約 40L、25L、13L）
・販売セット　1袋20枚入、1枚ずつ
・工夫した点
　ごみ袋に見えないように、かつ中身が見えにくいデザインにした





小サイズ化・レジ袋化に関する検討　②課題

1　必要性

市民のうち、どの程度の方が望んでいるのか

2　販売店での対応が可能か

3　仕様（サイズ、デザイン、セット数など）や作製数の決定

どのような形状のものを販売するか、必要な量はどのくらいか

4　販売価格の設定

製造コストとの対比

5　市民への周知方法　　など

環境審議会で検討いただきたい事項

佐賀市としては、導入することにおける影響、効果や他市の状況等をよく検討・考慮した上で、導入するべきと考えている。
そのため、環境審議会において、以下の項目について、検討いただきたい。

・レジ袋と兼用できる指定ごみ袋の利用の有無
・レジ袋として必要な性能・仕様（容量、強度、形状、色、表示等）
・プラスチック使用量削減及び環境負荷低減への効果
・販売方法及び流通方法
・現行指定ごみ袋制度への影響の有無
・市民への周知方法
・その他（例　市民アンケートの質問項目など）

ありがとうございました

